

令和6年度 愛知医科大学大学院看護学研究科 海外研修報告書

氏 名	看護学研究科 臨床実践看護学領域 佐藤知史	研 修 先	シンガポール国立大学
学 年	2学年次生	研修期間	2025年3月15日～2025年3月22日
主な 研修内容	・シンガポールの医療システム、NUSの教育システム、APNについての講義 ・プログラム参加大学による学校紹介と各国の医療システムのプレゼンテーション聴講 ・解剖博物館、シミュレーションセンター、VRセンター、コミュニティホスピタル等施設見学 ・高度実践看護師コース（APN）の講義聴講と自身の修士論文の発表 等		
報告内容	1 志望理由と研修での具体的な学びについて (1) 志望理由 本研修に志望した理由は二点ある。一つは、シンガポールにおける高度実践看護師（APN）の実践的活動を学ぶことであり、もう一つは、自身の修士課程における研究について国際的な学術交流を行うことであった。 (2) 学んだこと 研修中、臨床現場でのAPNの活動に直接触れることは叶わなかったが、APN学生向け講義の一部に参加する機会を得た。講義は「胸痛」をテーマとし、鑑別、病態、治療に至るまでを症例に基づいて統合的に扱っていた。日本の看護教育が科目ごとの縦割りの構成を基本とするのに対し、NUSでは実践に即した形で知識を横断的に結びつける構成となっており、講義中にはショートディスカッションも取り入れられ、知識のインプットとアウトプットが同時進行で行われていた。日本でもシミュレーションなどを用いた統合型学習は行われているが、座学においてこのような統合を図ることで、より強固な知識の結びつきが得られると感じた。 学術的な交流においては、自身の修士論文の概要をNUS看護学部の研究ディレクターに対して英語で発表する機会を得た。NUSは2024年のQS世界大学ランキング（看護学部門）において世界第8位、アジア第2位の評価を受けており、国際的に高い水準にある。加えて、APNコース副責任者の先生と再会した。2024年秋に同氏が愛知医科大学を来訪した際に自身の研究についてプレゼンテーションを行う機会があり、今回、修士論文としてまとめた研究成果について発表した。先生から、研究内容に関して助言を受けるとともに、将来的な国際誌投稿に向けたサポートの提案も得た。今回の再会を通じて、継続的な研究的つながりを築くことができた点は、本研修の大きな成果の一つである。さらに、APN領域において研究を行っている研究者の紹介も受けたことから、今後、国際的な研究ネットワークの形成に繋がる可能性が生まれた。 また、シンガポール国内のコミュニティホスピタルやケアセンター、マクドナルドハウスの見学を通じて、日本との医療提供体制や社会的支援システムの相違点についても学ぶことができた。さらに、このプログラムは愛知医科大学だけでなく、世界の複数の大学の合同プログラムであり、参加している日本の他大学の学生や、香港やベトナムの大学生とも交流を深めることができ、各国における看護教育や医療事情について、相互に知識を交換する機会となった。現地学生との日常的な会話を通じて、教育制度、学費、学生生活等の比較を行うことができ、研修全体を通じて、国際的な視点を持って看護を学ぶ意義を改めて実感した。 研究・臨床の両面において、多様な価値観や方法論に触れることは、今後のAPNとしての実践活動において大きな糧となると確信している。 2 海外研修への参加を考えている学生へのメッセージ 海外研修は、研究やAPNに関心を持つ者にとって、自らの問いを国際的な視座から捉え直す貴重な機会である。限られた期間ではあっても、海外の教育や議論の場に触れることで経験の幅が広がり、思いがけない方向へと歩を進める契機となるかもしれない。語学に不安があっても心配は要らない。中学生程度の英語力でも、翻訳ツールの助けを借りれば、多少の行き違いはあっても意思疎通に大きな支障はない。学びを装いつつも異国の空気を味わい、知的好奇心と遊び心の双方を携えて飛び込んでみてほしい。		

